校長通信

No.14　令和２年１０月１２日

和歌山市立河北中学校　校長　戸川定昭

≪河北祭、成功裏に終えました！≫

去る、１０月７日（水）、台風１４号による悪天候を予測して、予定していた日程を１日早めて、河北祭を開催しました。開会式の校長挨拶で、自分の力を最後まで全力で出すよう激励しました。そして、自分の競技が終わっても、仲間の競技をしっかり応援すること。更に、閉会式、会場片付けが終わるまで、気を抜かず参加し、自分の行動を振り返ることが、この河北祭における※「残心」であると話しました。

この河北祭開会式での挨拶が、私にとって、今年度河北中学校に赴任して来て以来初めて全校生徒の前で話をする機会でした。入学式で、式辞を述べましたが、新型コロナウィルス感染症拡大防止対策で、一年生と保護者の方だけの出席でしたし、１学期の始業式・終業式、２学期の始業式は、放送による校長挨拶でした。ですから、今回、全校生徒の表情を確認しながら、挨拶ができることが、とても新鮮で、うれしく、ありがたく感じました。子供たちは全員、私の方を向いて、真剣な表情で話を聞いてくれました。

本番では、各自エントリーした競技に、一生懸命参加していました。体育の授業での練習の成果をいかんなく発揮し、好記録を出して晴れ晴れしい表情をしている子や、思った通りの記録が出なかった子など、結果は様々でしたが、皆全力を出し、見ている私たちに感動を与えてくれました。応援の態度も立派で、他のチームを罵倒したりすることなく、一致団結して、楽しく、明るく、クラスメートを応援していました。

午後の部の最初は、クラブ対抗リレーです。それぞれのクラブのユニフォームを着て走ります。陸上部はさすがに速かったです。剣道部は、袴と防具をつけて走らなければならず、走りづらそうでしたが、楽しそうに参加していました。私も、教員チームのアンカーで参加し、サッカー部のいだてんに抜かれましたが、心地よい汗を流しました。

河北祭の文化部門のメインは、吹奏楽部の演奏です。コンクールもなくなり、演奏会もなくなり、たいへんつらい思いをしながら練習をして来たことだと思います。しかし、それらを乗り越え演奏した「アフリカンシンフォニー」は、すばらしい迫力と、テンポ良いリズムで、私の心にじーんと響いてくるものがありました。生徒会執行部の漫才やダンスも楽しく、練習の成果が出ていました。

すべての競技種目が終わった後の閉会式での生徒の態度も立派でした。姿勢がよく、落ち着いて、話をする人の方をしっかり注目していました。その様子を見て、本当に本校の生徒を誇らしく思いました。最後の校長挨拶で、「残心」のあるすばらしい河北祭となったと感想を述べました。

保護者の皆様には、コロナウィルス感染症拡大防止の観点から参観を控えていただきましたが、子供たちの、あのたくましい、立派な姿をご覧いただきたかったと思いました。コロナに負けず、着実に成長してくれています。ご理解・ご協力ありがとうございました。

※「残心」については、校長通信 No.8 をご参照ください。私は、日頃から生徒に「残心」の話をよくします。最近では、半沢直樹のドラマでも残心という言葉が使われ、生徒たちに更なる印象を残しているようです。